

# おお大勝利

平成 23 年度山東サッカー部報第 11 号 (7 月 11 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## 新チーム U16国体を相手に初勝利！

7月9日(土)山形中央高校グラウンドにて、Y1第8節、山東-U16国体チームとの試合が行われました。山東は新チーム発足後、山商、新東相手に2連敗。しかも内容の伴わない悪い負けが続いていただけに、国体チーム相手に浮上のきっかけをつかみたい。U16国体チームは、お盆に秋田で行われるミニ国体を勝ち抜くための強化として、今期からY1の前期(2回総当たりの1回目のみ)にゲスト参加。ゲスト参加だけに、U16国体との勝負はリーグ戦の成績に影響は与えないものの、そこは意地もあり、いくら相手は県選抜とはいえ1年生チーム<sup>1</sup>相手に負けたくはない。

試合が始まると、国体チームに元気がない。主力となるモンテディオ山形ユースの選手がいない模様。集まった選手にも「この勝負を絶対ものにしてやる」という気合が感じられない。暑さでモチベーションが下がったか。スキル(技術)では劣っていても、気合の入っている山東の方がやや優勢の試合運び。試合前は、県選抜を前に厳しい試合展開を予想させましたが、「なんだ、やれるじゃないか!」という感想が湧きおこる。山東は左サイドバックに1年生のヤグチを初起用。彼はユニフォームをもらうのも初めてなのだが、今回いきなり先発起用。左サイドバックをこなすにはまだまだ左足のボールタッチ、キックを向上させる必要がある<sup>2</sup>が、試合開始直後の緊張が解けると少しずつ本領を発揮し、判断の伴ったパスから好機を作り出す。国体チームは、低い位置ではしっかりボールポゼッションするのだが、高い位置でボールを回すだけのレベルに至っていない。全員、横パスやバックパスは得意だが、ボールを前に運ぶことのできる(縦への意識の高い)選手が

<sup>1</sup> U16国体チームは、年齢的に高校1年生が主体。

<sup>2</sup> 左足に自信がないと、左足でプレーすることが選択肢に入っておらず、相手が右方向から寄せてきても、ただ自分が右足でボールを扱いたいという自分中心の理由から、状況を無視して右方向にトラップしてしまい、ボールを失ってしまいます。徹底的に利き足でボールを扱っても絶対にボールを奪われないメッシやイニエスタ(どちらもFCバルセロナ所属)などの利き足の技術が半端ない選手ならいざ知らず、普通の選手は両足でボールを扱うことを学ぶ必要があります。私見では、〔個人差はあるものの〕利き足でロングキックができるようになる中学2年生くらいから、利き足の逆足でボールを扱うことを学ばせるべきと考えますが、そのように考える指導者が少ないためか、山形県の選手で両足を不自由なく使える選手は本当に少ないです。ちなみにイニエスタ(右利き)は左サイドで起用されることがありますが、左サイドを突破した際に右足のアウトサイドでセンターリングすることがあります。アウトサイドでセンターリングできるくらいであれば、徹底的に利き足にこだわってみるのも一つの手と思いますが、そのハードルは相当高いものです。さらに言うと、(Y1に出場している選手も含め)山形県の選手は利き足すらまともに蹴れない選手がほとんどだと感じています。中学生年代において、さまざまな技術の中でキックの技術が最も軽視されているのではないのでしょうか?この問題については、今年の『県高校サッカー年鑑』の選手権の視察レポートに書いておきましたので、手元にある方はご覧ください。手元にない方は、「山形東サッカーOB会」HP上に22年度1月頃UPされたレポートをご覧ください。

いない<sup>3</sup>。ジーコ監督が率いた頃の日本代表みたいなもので、敵チームに全く怖さを与えないボール回し。何でもないDF裏へのアバウトなボールを相手DFと競り合っただけのものにしたFWユータローがゴール前で惜しいシュート放つなど、ボールポゼッションでは劣るものの山東の方が得点を予感させる攻撃を見せ、前半0 - 0で終了。

後半、国体チームは選手を入れ替えて臨む(山東一年ウスバも前半で交代)。山東も故障者が相次ぎ、ヨシタカ、ゴメらが途中交代。また疲れの見たセンドウらを交代させ、これまで出番の少なかった2年生のヒデキ、ジュリ、ナオト、オオヤマ、ハマジがピッチの中へ。すると、山東の勢いが落ちるところか、フレッシュな面々が躍動し、完全に山東の流れが生まれる。特に1.5列目のところで仕事をするジュリがなかなか小憎らしい動きで相手ディフェンスをかく乱。FWが決めていれば、後半の前半だけで3、4点入っていてもおかしくない状況。どうした、山形県選抜! 「これは勝たなければいけない勝負だ」と思い始めるが、点数がなかなか決まらず、新チーム初勝利への焦りが募る。すると、途中からボランチをしたショウタ主将がドリブルで粘ってから左サイドへパス、ユータロー(確か)はオフサイドポジションにいましたがオフサイドを意識してボールに関与しないそぶり。それを感じて後方から猛烈な勢いでダッシュしてきたナオトが、ピッチ外にいるゴウ先輩の熱烈応援を受け、ボールを拾い、そのまま左足でシュート。地を這うような低い弾道のボールはGKの脇を抜け、ゴールネットを揺らす。山東先制! いや~、途中交代で見せるね、ナオト!! 遠藤先生から「覇気がない」と駄目出しを出され続けたナオトが、その成長ぶりを見せつけました。天国の遠藤先生、見てくれましたか? その後、足が痙攣して5分ほどベンチで休養したショウタが、浮き球ルーズボールの落ち際を右足アウトにかけたボレーシュートを放つと、山東ベンチから見て相手ゴールサイドネットに一直線に入る「ビューティフル休養十分ボレーシュート」となる。2 - 0へ。結局後半、決定的なシュートを1本国体チームに打たれましたが、それ以外はなんとか凌いで、2 - 0で山東勝利。新チーム初勝利をやっとゲットしました。こんなことならこの試合でも勝ち点が欲しかったな~、などと都合の良い思いが頭をよぎりましたが、それはさておき、この初勝利を素直に喜びたいと思います。

最後に一言。この試合、国体チームの選手たちから「おれたちが県選抜なんだ、お前たちごときに負けてなるものか」という意地が全く感じられなかったのが、とても残念でした。私も高校生の時、県選抜に選ばれ方々で試合をしましたが、「山形県のレベルを代表している、恥ずかしいプレーはできない」という意識は常にありました。また、所属チームの試合にても「やっぱりあいつは選ばれるだけあるね」と評価されるよう(決して「なんであいつが選ばれてんの?」と言われたいよう)自分の価値をプレーで証明し続けなければならないという思いは常にありました。県選抜である以上たとえ主力が抜けていたとしても、山形県ごときはチンチンにしなければいけないはずで。

さて、次節は暫定一位の日大山形戦となります。応援よろしくお願いします。

7月18日(月)Y1第9節 VS 日大山形 10:00~@日大山形G

7/16 山形中央戦は 9/24  
に延期になりました

<sup>3</sup> これは、山形の中学生段階で「うまい」とされる選手の大半に当てはまります。むやみにボールをゴール前に放り込む、いわゆる「蹴るサッカー」への毛嫌いが、ゴールへボールを運ぶことが第一目標であるはずの攻撃の基本を見失わせているように感じます。世界一のクラブFCバルセロナの場合、局地戦で見せる個々のスキル・グループでのボール回しが、決して局地戦だけで満足するものではなく、ゴールに近づく手段となっています。ゴールにボールを近づける機会を失わない(そういう機会を自分から作り出す)選手が良い選手であり、バックパスや横パスばかりの選手は本物ではありません。